川俣町 農業委員会だより

第29号
令和7年3月1日
川俣町農業委員会
川俣町字五百田30
☎566−2111

会長就任あいさつ

川俣町農業委員会
会長　菅野儀政

日頃より本町農業委員会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、農業委員の任期満了に伴う改選により、令和6年2月から引き続き会長職に指名を頂き、身の引き締まる思いでおります。

農業を取り巻く環境は厳しく、農業者の高齢化や、後継者及び担い手不足、遊休農地の増加や価格高騰の影響による農業資材の値上がり等、様々な課題を抱えております。

農業委員・農地利用最適化推進委員は、それぞれの課題解消に向け、町民及び農業者の皆様、農業団体、関係機関との連携のもと、本町の地域農業を守り、地域住民を主体とした農業の振興及び発展に取り組んで参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年度 川俣町の農地利用の最適化に関する施策について

町長に意見書を提出

本町農業委員会は、令和6年11月29日、町に対して令和7年度の農業施策を重点に取り組むよう、意見書を提出しました。

意見項目

1　原発事故からの復旧・復興への施策

(1) 農地・林地の保全について
(2) 安全な農林産物の放射能対策について

2　継続的施策

(1) 国内対策等の強化について
(2) 担い手の育成確保・集落営農推進対策について
(3) 認定農業者の育成
(4) 女性農業者への取り組みについて
(5) 鳥獣被害対策の強化について
(6) 耕作放棄地対策の実施
(7) 環境保全対策の取り組みについて
(8) 農業生産支援対策について
(9) 山木屋地区の営農再開の推進について
(10) 農業委員会及び事務局体制について

農業委員会視察研修 山形県へ

令和6年11月14日から15日にかけて、山形県内にて農業委員会の視察研修を行いました。

一日目は、大蔵村農業委員会にて、地域計画策定に対する農業委員会の関わり方、遊休・荒廃農地対策、有害鳥獣対策など、当町においても喫緊の課題となっている内容について研修、意見交換を行いました。その他にも、タブレットを活用した各種通知や資料のペーパーレス化により、郵便料金の大幅値上げに対する経費削減を図っているところなどは大いに参考となりました。

大蔵村農業委員会との意見交換

大蔵村は、役場の標高が５０ｍ、肘折温泉や棚田でも３００ｍほどで、山木屋地区などよりも低いにもかかわらず、積雪量が多い時で４ｍを優に超える日本有数の豪雪地帯ですが、水稲、トマトを中心に生産し、限られた優良農地に対し、積極的に基盤整備を行い作業効率を高めているほか、６次産業化にも力を入れているとのことでした。

見晴らし台より棚田を見学

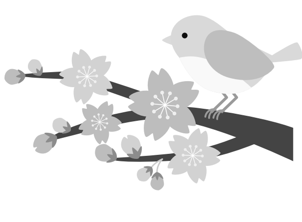
圃場の大きさなどは川俣町と変わらず、整備状況に差はあるものの、少子・高齢化による農業者の減少、担い手不足の状況は同じであることが分かりました。農業委員・農地利用最適化推進委員のなり手についても同様であり、後任を必ず見つけてから退任するといった取り組みで、かろうじて定数を確保されているとのことでした。

その後、全国的にも有名な四ケ村の棚田を視察しました。ＮＨＫの「限界集落住んでみた」にも取り上げられるなど、過疎化・高齢化が進み、大型車両も進入が困難な環境の中、中山間地等直接支払交付金等を上手に活用し、村の内外の人々の力を結集しながら美しい棚田の風景を守り続けていることに驚かされました。中山間地域の条件不利地にあっても、人々の熱意があれば、できることは意外と多いことを学びました。

二日目は、山形市内の道の駅３か所（村山、寒河江、米沢）を視察しました。

どの道の駅も、平日にもかかわらず驚くほど多くの買い物客で賑わっていました。各地域の野菜、果物等の特産品の直売所も設置されており、それぞれに陳列方法やパッケージに工夫を加えながら販売されており、販売農家にとっては大変参考になりました。

「四ケ村の棚田」の碑



新任委員のご挨拶

農業委員・農地利用最適化推進委員は、令和6年2月19日に新体制となり、約1年が経過しました。新たに任命された4名の方よりあいさつをいただきました。

農業委員 髙橋 亨

農地利用最適化推進委員として、2期6年間活動させていただいておりました。経験を活かしつつ、各先輩委員の皆様にご指導頂きながら地域農業に少しでも貢献できるよう、微力ではございますが努めてまいります。

農地利用最適化推進委員 齋藤 勝士

地域農業を取り巻く環境は厳しさを増しております。各委員の皆様にご指導頂きながら研鑽に励み様々な相談や課題に取り組んでまいります。

農地利用最適化推進委員 間 律子

川俣町における地域農業を知ることにより必要な知識を学び、将来の農業に対する現場の意向や問題について行政との架け橋となれるように、微力ではありますが各委員の皆様のご指導を頂き、農地利用最適化推進委員の活動に努めてまいります。

農地利用最適化推進委員 谷田部 広好

地域農業と農地の現場を再確認し、各委員の皆様にご指導を頂き、農地に関する様々な相談や課題に答えられるよう学び、農業・農地維持のため貢献できるよう活動してまいります。

農地にかかる手続きは農業委員会へ

- 農地の売買や貸し借り
- 農地に住宅を建築したい、駐車場・資材置場にしたいなど農地を農地以外の目的で使用したいとき
- 農地に盛土をしたいとき
- 農地を相続したとき　など

農業委員会へ申請手続きや届け出が必要となります。

農業功労者知事表彰

農業委員として15年以上、うち会長職として6年以上在任され、農業の振興と発展に寄与された方に贈られる農業功労者知事表彰を、菅野儀政会長が受賞されました。

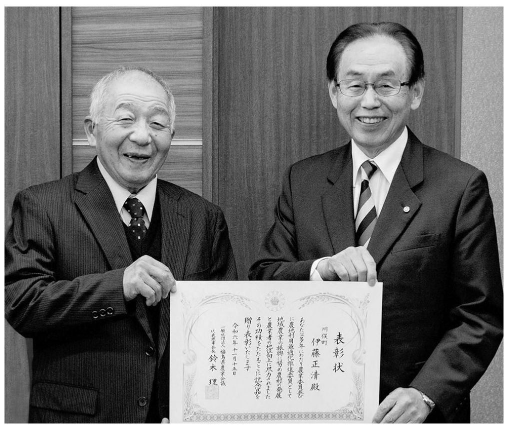
菅野会長は「この度は素晴らしい賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。これもひとえに各関係皆様のお力添えのおかげでありますこと、心より感謝申し上げます。今後もさらなる農業振興のため邁進して参りますので、ご支援とご協力をお願いいたします。」と受賞の喜びを語られました。

菅野儀政会長

永年勤続農業委員表彰

福島県農業会議から、農業委員及び農地利用最適化推進委員を12年以上在任され地域農業の振興に寄与された方に贈られる、永年勤続農業委員表彰を伊藤正清委員が受賞されました。

伊藤委員は「この度は永年勤続の表彰を頂きまして、誠にありがとうございます。これも委員の皆様や、事務局のご指導のおかげと思っております。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。ありがとうございました。」と受賞の喜びを語られました。



伊藤正清委員

受賞されたおふたりには、川俣町農業委員会一同、深甚なる敬意と感謝の意を表します。

新規花き農家の家族経営協定調印式

山木屋で新規就農する菅野正明さん、麻衣子さんご夫婦が、家族経営協定の調印式を令和7年1月31日に役場で行いました。

同協定は、家族で取り組む農業経営について、経営の方針や目標、家族一人ひとりの役割や働きやすい就業環境などを家族の話し合いに基づき取り決めるものです。

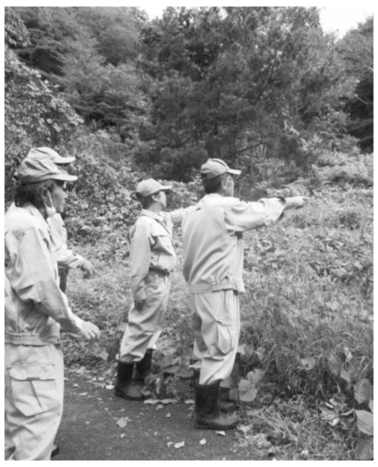
令和6年産 水稲作況調査報告

農業委員会では、令和6年9月17日に水稲の作況調査を実施いたしました。調査方法は、平年作と比較できるよう定めてある定点圃場を中心に16圃場を調査いたしました。作柄概況は、10アール当たり486キロの調査結果となりました。

農地利用状況調査を実施しました

農業委員会では、令和6年10月16日に、農業委員及び農地利用最適化推進委員が5班に分かれ、町内の農地について、農地の「利用状況調査」（農地パトロール）を行いました。

この調査結果をもとに、遊休農地と判断された農地の所有者に今後その農地をどのように利用する意向であるか「利用意向調査」を行いました。



あとがき

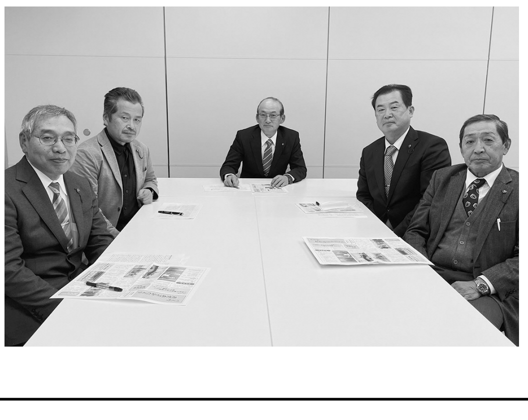
昨年は、地球温暖化や猛暑の影響による水稲米の品質低下により米不足に陥ることになり価格の上昇が続く現在です。

物価の高騰により生産資材・原料価格の上昇が続いています。

農業担い手の減少、耕作放棄地の増加、日本の農業は大きな転換期を迎えています。

今後の日本の農業の担い手が継続発展していくためには、収益の高い農産物の導入が望まれます。

安田 泰良
髙橋 亨
谷田部 広好
遠藤 政信
高橋 忠俊



国が支える。安心が大きくなる
担い手積立年金［愛称］
農業者年金は①～③の要件を満たす方ならどなたでも加入できます。
農業者年金に加入しましょう！
①年間60日以上農業に従事
②60歳未満
③国民年金第1号被保険者
（国民年金保険料納付免除者を除く）
※詳しくは農業委員会事務局かお近くのＪＡへ